

えほんのおへや通信



2012年1月1日(日)発行 サンガこども園 <http://sanga.iinaa.net/index.html>

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えると気持ちが改まるものです。初詣でに出かけ神仏に願をかけた方も多いと思います。今年は大きな災害のない平穏な一年であってほしいですね。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」1月号の紹介。

こどものとも 0.1.2

10ヶ月～2歳向き

「こやぎが ぴよんぴよん」

田島征三 作

ウサギがぴよんと跳ぶと、こやぎもそれをまねしてぴよん。カエルが跳ぶと、まねしてぴよん。最後はみんなでぴよんぴよんぴよん。



こどものとも 年少版

2～4歳向き

「ももいろのちいさないえ」

おかいみほ 作

ぼくはももいろの小さな家をもっている。窓から見える景色が部屋ごとに変わる不思議な家。窓をあけると、外はいちめん、みどりの野原。次の部屋の窓をあけると……。



こどものとも 年中向き

4～5歳向き

「馬の草子」

井上洋介 絵と文

「馬の草子」とは、馬のおとぎばなし、ずっと昔、十夜の夜に、大きな馬が川に立っているという言い伝えがありました。ある時、その川に橋がかかりました。すると、その橋の上を通る時……



こどものとも

5～6歳向き

「おおどしのきやく」

～日本の昔話～

五十嵐七重 再話 / 二俣英五郎 絵

大晦日の晩、貧しいじい様とばあ様の家に、一人の坊様がやってきた。雪で山の寺へ帰れないという。そこで、ふたりは、気持ちよく坊さまをもてなし、泊めることにした。朝、坊さまの寝床を見ると、姿はなく、……。



ちいさなかがくのとも

3～4～5歳向き

「あかい み みつけた」

山下恵子文 / 城目ハヤト絵

お正月に飾るセンリョウという赤い実を、おばあちゃんの家にもらいにいきます。女の子がお父さんと歩きながら、住宅街のお庭や公園、林の中で、赤い実をたくさんみつけます。



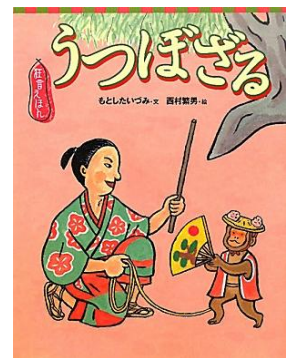
今月は他にこんな絵本も購入しました。

「狂言えほん うつぼざる」

文：もとしたいづみ 絵：西村繁男

3歳から

昔、わがままな殿様が、家来をつれ、狩りにでかけました。その途中で猿まわしを見かけ、自分のうつぼ(矢入れ)にしようと、猿の毛皮をよこせと無理難題をいいつけます。弓矢でおどされ、泣く泣く子猿をうつことにした猿まわし。せめて苦しまないように我が手で、棒をふりかぶると、猿は合図とかんちがいをし、芸を始めます。その姿に猿まわしは、やはりうてぬ、と涙を流し、殿様は……。



【狂言と絵本】

「狂言」は「能」とともに室町時代に成立した日本の古典芸能の一つです。主に能楽堂などで能と一緒に演じられています。狂言の魅力の一つは人間が誰でも持っている性質をおもしろおかしく表現しているところにあります。又、狂言と絵本は、せりふや場面の「くりかえし」という共通のおもしろさもあります。

そんな「狂言」は小さな子どもでも楽しめるものだと思います。

(年齢は目安です。)

【雑感】

人間の感覚というものは、その時々前後によって大きく変わるものです。常に比較で物事をとらえています。「広いか狭いか」、「高いか低いか」、「柔らかいか固いか」、「早いか遅いか」、みんな比べてどう感じるかなのです。この冬の寒さも春になり、気温がぐーんと上昇して25℃くらいになる。そうすると「暑い」と感じます。そして秋になり、気温がぐーんと下がって25℃くらいになり「すずしいな」と感じるものです。同じ気温で正反対の感覚になるのです。

